〔閑窓自語下〕宇治橋再造事

寛政五年五月、宇治ばし武家の沙汰として、もとの所につくりわたしぬ、供養の沙汰に及ばず、後宇多院の御宇、弘安九年、西大寺の恩圓上人（興正菩薩）再興のはし、去寶暦六年九月、洪水に落ちける、その時うき島の十三重の塔もたふれ、橋姫のやしろもながれぬ、その後は平等院のあたりにかり橋をかけて往反せし、

〔夫木和歌抄二十橋一〕ひづかはのはし　山城

〔名所方角抄山城〕京邊土名所　辰巳分

木幡　河○略中ひづ河と云、木幡の里ちかき小河也、橋をよめり、ふしみのひがしなり、

〔山城名勝志十七宇治郡〕櫃河橋

櫃河自北山科流出、而經勸修寺東醍醐西、木幡西而流合宇治川末也、櫃河橋今在六地藏町中橋乎、土人云、昔自伏見通大津、渡六地藏町橋行也、

〔夫木和歌抄二十一橋一〕題不知懷中略中○　よみ人しらず

日くるればをかのやにこそふしみなみあけてわたらんひづかはのはし

〔新勅撰和歌集十九雜〕春日社に百首歌よみて奉りけるに、橋歌、　皇太后宮大夫俊成

都出てふしみをこゆる明がたはまづうちわたすひづ河の橋

〔松葉名所和歌集十五比〕櫃河橋　同（山城類字）

良玉

なをざりにふみとゞろかす音すれば明てだにみぬ櫃川の橋

〔書言字考節用集一乾坤〕板田橋（イタダノハシ）和州高市郡○

〔大和志十四高市郡〕文苑　小墾田并坂田橋○

〔萬葉集十一古今相聞往來歌〕寄物陳思

櫃川橋

大和國板田橋